

平成22年1月27日

世田谷区立八幡中学校長
君島 光 司 様

世田谷区立八幡中学校関係者評価委員会
委員長 山崎 縁

平成21年度世田谷区立八幡中学校 学校関係者評価結果について
(前年度の改善方策について実行した改善結果を含む)

本年度の学校関係者評価の結果を分析・検討し、並びに自己評価の報告を受け、以下のようにとりまとめましたので、ご報告いたします。

今回の学校関係者評価委員会の報告を次年度の学校経営にご活用いただき、八幡中学校がなお一層発展されることを委員会一同祈念いたします。

1. 調査結果の概要

昨年度回収率が減少したことの改善を図ったところであったが、今年度は回答を返信封筒に加え、ファックスや直接持参するボックスを学校に設けるといった工夫はしたものの、地域における回収率を下げることはなかった。保護者の回収率はやや減少した。

全体的に見て、各設問の回答から『肯定的評価』(A「とても思う」・B「そう思う」)と『否定的評価』(C「あまり思わない」・D「思わない」)及び『わからない』(E)に分けてその割合を比較してみると、おおむね『肯定的評価』が多い。昨年度の『肯定的評価』の数値より今年度は高くなった項目が増え、『否定的評価』が低くなるという傾向が見られた。

昨年度の学校関係者評価の結果をうけ、今年度の改善・努力をした項目について考察し、今年度どのように評価されているか結果と共に分析する。また、昨年の評価に比べ数値的に低くなった項目や『分からない(E)』の比率の高かった項目については、結果をよく吟味し、さらに改善・努力する必要がある。

2. 調査の結果からみる八幡中学校の活動について

(1) 保護者の評価

・全37項目中『肯定的評価 (A「とても思う」・B「そう思う」)』

5割を超えなかったもの 0項目
5割を超えているもの 4項目
6割を超えているもの 11項目
7割を超えているもの 11項目
8割を超えているもの 11項目
9割を超えているもの 0項目

※参考 昨年度 (H20年評価) 37項目

5割を超えなかったもの 5項目
5割を超えているもの 6項目
6割を超えているもの 12項目
7割を超えているもの 11項目
8割を超えているもの 3項目
9割を超えているもの 0項目

注) 質問項目数は同数、内容は2項目変更

・昨年度に比べて『肯定的評価 (A「とても思う」・B「そう思う」)』が増加した項目は34項目であった。
減少した項目は1項目であった。

・昨年度に比べて『否定的評価 (C「そう思わない」・D「思わない」)』が増加した項目は4項目であった。
減少した項目は30項目であった。

<I 重点項目への取組>

※以下、『肯定的評価（Ａ「とても思う」・Ｂ「そう思う」）』⇒『肯定的評価』と略記

『否定的評価（Ｃ「そう思わない」・Ｄ「思わない」）』⇒『否定的評価』と略記

- ・学校独自項目「学級や学年がまとまりのある集団として成長している」では肯定的評価が80%、否定的評価は9%である。

＜Ⅱ 地域とともに子どもを育てる教育＞

【保護者・地域連携】

- ・9-(1)「本校は、地域の人材や施設を教育活動に活かしている。」の項目で肯定的評価は69%と、前年の64%を上回った。否定的評価は10%であった。
 - 学校の自己評価では特別支援学級の指導改善につながったとの報告があった。地域の教育力を更に活用するよう期待する。
- ・9-(2)本校は地域の活動や行事によく協力している」の項目では、『否定的評価』が3%で昨年と同じであったが、肯定的評価は85%から87%に上がった。
 - 地域では学校側との協力関係はよくできていると思われる。

【学校協議会】

- ・9-(3)「本校では学校協議会の活動が活発である」の項目が新設され、59%が肯定的評価をしている。また否定的評価は25%である。
 - 学校協議会の活動が活発であるかということまで知るには相当な情報提供がなければできない評価と思える。学校として伝える努力が必要である。この項目については毎年の課題となっている。

【広報活動・情報提供】

- ・8-(1)「学校からの通信に、保護者の知りたい情報が盛り込まれている」、8-(2)「本校は、保護者に対していかに説明や対応をしている」、8-(3)「学校公開や保護者会を通して学校の様子がよくわかる」はいずれも肯定的評価が80%以上であった。いずれも否定的評価が下がり、肯定的評価が上がっている。今年度新設された8-(4)「本校のホームページは充実している」では肯定的評価が62%で、分からないが29%と、否定的評価の7%を上回った。
 - 今年度は新型インフルエンザの影響で公開週間の中止や行事の延期があり、評価が下がったかもしれないが、学校としては評価の向上する手立てを講じるようお願いしたい。また、知りたい情報が何かを知る努力は必要と思われる。
 - ホームページについては知らないという評価を改善していくよう取り組みをしていただきたい。

＜Ⅲ 未来を担う子どもを育てる教育＞

【学習指導】

- ・1-(1)「本校では、子どもにとって分かりやすい授業をしている」1-(2)「本校は授業を通して、子どもたちに学力がついている」の肯定的評価が60%を超え、1-(3)「通知表で評価されたことは納得できる」1-(4)「本校では授業の開始・終了時間を守って授業が行われている」は肯定的評価が75%となっている。
 - 自己評価との乖離が気になる項目の一つである。保護者の肯定的評価が向上する努力を願う。

【生活指導】

- ・概ね肯定的評価が高いが、2-(2)「本校では子どもたちに問題となる行動が見られない」の項目は肯定的評価が61%と、他の項目に比べ低くなっている。ルールについての指導や相談しやすいことについて評価が高い。
 - 他の項目と比較し、肯定的評価が低いことが気になる。ルールについての指導や相談しやすいことについての評価が高いことから、問題行動をなくすことと合わせ、生徒相互の学びを活かすことを期待する。

【学校行事】

- ・肯定的評価が高く、3-(1)「子どもたちが活躍する場面がたくさんあり、内容が充実している」3-(2)「子どもたちは学校行事を楽しみにしている」は80%を超えている。
 - 評価が高いことから、今後も引き続き努力してほしい。

【健康・体力】

- ・11-(4)「本校では、健康の増進や体力の向上に取り組んでいる」では前年度より肯定的評価は増えているものの、61%にとどまっている。
 - インフルエンザについてなど、健康に関する指導が増えたと思われる。

【キャリア教育・進路指導】

- ・進路指導についてはすべての項目で、前年度より向上している。しかし、肯定的評価が60%前後と他に比べやや低い。
 - 自己評価では多くの情報提供をしているとなっている。しかし、毎年この項目では高い評価を得ることができていない。進路指導・キャリア教育について学校側はさらに詳細に説明し、理解してもらうことが必要であると思われる。
 - 学校卒業後の進学については個人により異なるので、家庭での話などの協力を得る努力が必要である。そのためには1年次からの伝達の仕方に工夫を願いたい。

【部活動】

- ・前年度の「適切である」という表現が、何をもって適切かがあいまいであると指摘した。今年度も同様のことが言えるが、肯定的評価は高まった。また、「入りたい部活がある(70%)」、「学校全体で部活動を活発にしようと努力している(64%)」も前年度より上がっている。
 - 学校の自己評価でも努力している様子がうかがえる。引き続き指導の継続を期待する。

<IV 信頼と誇りのもてる学校づくり>

【学校経営・学校運営】

- ・6-(1)「学校の重点目標が明確」、(2)「学校長はリーダーシップを発揮している」、(3)「学校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」のいずれも評価が高く、特に「教職員が協力して教育活動に取り組んでいる」の評価は80%を上っている。

【教職員】

- ・7-(1)、(2)共に『肯定的評価』は80%を超えており、教員の対応については概ね理解されている。
 - 学校経営・学校運営、教職員については評価が高いことから、今後も継続した経営・対応を期待する。

【保健管理】【安全管理】

- ・保健管理に直接結びつく評価項目がないが、安全についての指導や避難訓練については、安全性を高めていると肯定的評価をしているのは77%である。しかし、10-(3)「施設の安全は確保されている」では肯定的評価は56%で、前年度の41%は上回っているものの、他の項目に比べ、肯定的評価が低い。「わからない」の回答が29%と多い。
 - 学校の安全性や安全への取組など十分に説明してきたとは言いがたい。不審者対策、防災対策など項目ごとに伝える努力を願いたい。

<V 教育環境の整備>

【施設設備】

<VI 学校生活全般>

- ・学校生活全般については比較的肯定的評価は高い。中でも11-(1)「本校の子どもたちは学校生活が楽しいと感じている」は88%が肯定的評価をしている。しかし、前々年度は90%であり、昨年の評価委員会で80%の肯定的評価を得た。
 - 自己評価によると、アンケートのタイミングにより数値が変化することも報告されている。また、楽しいと思えない生徒への対応も報告されている。今後も学校の取組を継続していただきたい。

<学校独自項目>

- ・昨年と同項目の12-(1)「地域運営学校である八幡中学校は、地域との連携を進めるため努力している」では20ポイント以上数値を高めることができた。一方12-(2)「世田谷9年教育パイロット校の指定を受け、小学校との連携を深めた教育力と特色を生かした教育活動を展開している」については、やや数値を下げ、70%となった。
 - 本年度インフルエンザの流行があったため、授業公開や学校説明会の中止、学芸発表会の延期による小学生の参加ができなくなったことも影響していると考えられる。
- ・12-(4)「進路便りでは進路について必要な情報がよくわかる」の数値は63%であった。

- 必要な情報について教員と保護者との共通理解ができていないのではないかとと思われる。保護者が必要とするものが何かを学校は何らかの方法で知る必要があると思われる。

(2) 地域の方の評価

- ・全20項目中『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割を超えなかったもの	2項目
5割を超えているもの	1項目
6割を超えているもの	4項目
7割を超えているもの	5項目
8割を超えているもの	7項目
9割のもの	1項目

※参考 昨年度（H20年評価）18項目

5割を超えなかったもの	2項目
5割を超えているもの	1項目
6割を超えているもの	2項目
7割を超えているもの	5項目
8割を超えているもの	4項目
9割を超えているもの	4項目

- ・昨年度に比べて『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』が増加した項目は8項目であった。
減少した項目は9項目であった。
- ・昨年度に比べて『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』が増加した項目は9項目であった。
減少した項目は8項目であった。

＜Ⅰ. 重点項目への取組＞

- ・学級がよりよい集団として成長しているかどうかについては質問項目の設定はなく、具体的な評価を受けていない。

＜Ⅱ 地域とともに子どもを育てる教育＞

【広報活動・情報提供】

- ・4-(1)「学校からのお知らせや学校便りなどにより、学校の様子がよくわかる」4-(2)「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子がよくわかる。」の2項目は『肯定的評価』を下げた。4-(3)「学校は地域に向けて学校の良い点などの情報提供をしている」の項目では大きく『肯定的評価』を上げている。新設の4-(4)「学校のホームページは充実している」については、わからない評価が47%と『肯定的評価』の37%を上回っている。

- 否定的評価はさほど高くはないが、わからない評価を改善するよう取り組みを進めてほしい。

【地域との連携】

- ・5-(1)「地域の人材や施設を教育活動に活かしている」の項目では、『肯定的評価』昨年は一昨年を大きく上回った。本年度は昨年には及ばなかったが、一昨年よりは高い評価を受けた。
- ・5-(2)「学校は、地域の活動や行事によく協力している」では90%と昨年度同様の評価を受けた。評価委員会としては、もっと評価が高く表れてもよいのではと日頃の八幡中の活動を評価しながらも、期待に応えるという点では、地域の中にはもっと中学生がやってくれるものとの思いがあるかもしれないとの意見があった。
- ・5-(3)「学校協議会が十分機能している」の項目では、『肯定的評価』は31%と低く、昨年度低かった36%より下がった。また『わからない』の回答は依然26%あり、「学校協議会」としての活動がアピールできていない。「学校運営委員会」「学校関係者委員会」など、学校に関わる委員会の機能が十分説明できていないため、「学校協議会」がどの範囲の活動であるのか、理解されていないと思われる。このことは昨年度も同様の分析をしている。

- 学校協議会の機能や活動など、広報を充実させていくよう改善を進めてほしい。

＜Ⅲ 未来を担う子どもを育てる教育＞

【生活指導】

- ・1-(2)「本校では、子どもたちに問題となる行動が見られない」は前年度より12%『肯定的評価』が下がっている。20年度は前年度より10%下がっていることから、年々問題となる行動が地域でみられるよう

になっているということになる。また、『わからない』の回答数値も年々多くなっている。

- ・1-(1)「本校の生徒は社会のルールを守っている」1-(3)「本校の教員は、子どもたちのよき手本になっている」2項目で、昨年度より『肯定的評価』は上がっている。

➤ 地域で問題行動が見られるようになってきているとの評価である。一層地域と協力して取り組む手だてを講じるよう努力してほしい。

【学校行事】

- ・2-(1)「学校行事の内容は充実している」2-(3)「学校行事のときに地域が協力できることはもっとある」の項目では、『肯定的評価』が大きく下がった。
- ・2-(2)「事前の準備や当日の案内などで地域への配慮がある」は18%『肯定的評価』が上昇している。今年度は新型インフルエンザの流行防止のため、行事の中止や延期があり、地域への周知には特段の配慮が必要となり、配慮についての『肯定的評価』があがったが、行事への参加が減少したことが内容や地域の協力の項目への『肯定的評価』を下げたかもしれない。

➤ 行事については次年度に回復するよう期待する。

<IV 信頼と誇りのもてる学校づくり>

【学校運営】

- ・3-(1)「学校の重点目標が明確である」の項目では『肯定的評価』が高まった。しかし、3-(2)「校長はリーダーシップを発揮している」3-(3)「地域の意見に対して、学校は丁寧に説明・対応している」では『肯定的評価』を下けている。
- ・新設の3-(4)「本校の教職員は、社会人としてのマナーを身に付けている」の項目は『肯定的評価』が79%であった。

【安全管理】

- ・6-(1)「本校は、安心・安全な学校づくりを進めている」、6-(2)「本校は安全性を高めようと、積極的に地域と協力している」、6-(3)「本校では学校施設の安全性は確保されている」の全項目で『肯定的評価』が上がっている。特に6-(3)「本校では学校施設の安全性は確保されている」は、昨年度まで50%に満たなかったが、本年度は53%となっている。しかし依然として「わからない」が高い。

➤ 学校運営について「地域の意見に対しての対応」の評価が下がったことについて、原因を考え、改善を願いたい。また、安全管理については周知するよう願いたい。

<V 教育環境の整備>

<VI 学校生活全般>

<学校独自項目>

- ・学校独自項目の7-(1)「地域運営学校である八幡中学校は、地域との連携を進めるため努力している」では79%から48%に大きく肯定的評価を下げた。
- ・7-(2)「世田谷9年教育パイロット校の指定を受け、小学校との連携を深め、地域の教育力と特色を生かした教育活動を展開している」では69%から63%になり、やや評価を下げた。

➤ 地域との連携を図るための努力が下がったことは課題である。地域に人材はいるが、窓口はわからないため、協力できない人もいる。現在地区委員が地域のコーディネーター的な役割をはたしている。誰かがコーディネーターとなり、コーディネーターを活かした活動ができるよう改善を求めたい。また学校が必要とする役割や地域のできることを届ける窓口が周知されるとよい。

(3) 生徒の評価

- ・全21項目中『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割を超えなかったもの	3項目
5割を超えているもの	2項目
6割を超えているもの	4項目
7割を超えているもの	12項目
8割を超えているもの	1項目
9割を超えているもの	0項目

※参考 昨年度（H20年評価）21項目

5割を超えなかったもの	5項目
5割を超えているもの	7項目
6割を超えているもの	7項目
7割を超えているもの	2項目
8割を超えているもの	0項目
9割を超えているもの	0項目

- ・昨年度に比べて『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』が増加した項目は20項目であった。
ほぼ同じ項目が一つで、減少した項目はなかった。
- ・昨年度に比べて『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』が増加した項目は2項目であった。
減少した項目は19項目であった。

<Ⅰ. 重点項目への取組>

- ・8-(3)「学級や学年がいろいろな活動をとおしてまとまってきた」について、71%が肯定的評価をしている。否定的な評価は22%、わからないが7%であった。まとまってきた状態をどう把握させているのか、基準となることがわからないので、原因を探ることが必要である。

<Ⅱ 地域とともに子どもを育てる教育>

【保護者・地域連携】【学校協議会】【広報活動・情報提供】

<Ⅲ 未来を担う子どもを育てる教育>

【教育課程】

- ・学習指導 昨年度「本校では、1分を大切に授業が行われている」で、『否定的評価』が55%と、半数を超えていたことから、「授業に対して生徒がどのように捉えているか追跡調査が必要であると思われる。」との提言をおこなった。本年度は1-(4)「先生は、開始・終了時間を守って授業をしている」と、調査項目の表記が変わった。しかしながら、これについても51%と『肯定的評価』としては低い傾向にある。否定的評価は44%に減少した。
 - 自己評価では、教員も否定的評価が19%見られた。さらに努力が必要であるが、「開始」と「終了」と分けてアンケートをとってみたいという案もある。
- ・1-(1)「授業の内容はよく理解できる」(3)「通知表の評価は納得できる」では、『肯定的評価』が19年度、20年度を超え、『否定的評価』が22～4%となり、昨年度の提言を受け、改善している様子がうかがえる。
 - 評価については授業や保護者会などでの説明がよく理解されてきたと考えられる。
- ・1-(2)のわかりやすい指導については、20年度より向上しているものの、19年度より数値を下げている。昨年度の提言を受け改善されているものの、さらなる改善が必要とおもわれる。
- ・生活指導 すべての項目で『肯定的評価』が上がっている。特に2-(1)「私はきまりを守って行動している」の項目は82%である。
- ・学校行事 すべての項目で『肯定的評価』が上がっている。
- ・キャリア教育・進路指導 すべての項目で『肯定的評価』が上がっている。しかし、4-(2)「将来の生き方や進路について先生と相談する機会がある」(3)「進路に関する情報を十分提供してくれる」についての否定的評価は30～34%と、まだ十分でないと考えている生徒が多い。生徒のほしいと思う情報とは何かを探る必要がある。もしくは、学校の提供する進路に関する情報とはどういうものか、納得させる必要もある。
 - 職場体験については、地域の協力も含めて充実してきている。キャリア教育の意義をさらに理解させたいものである。

【部活動】

- ・5-(1)「部活動は充実している」(2)「部活動の回数や時間はちょうどよい」(3)「入りたい部活動がある」の項目で『肯定的評価』の回答は、昨年度より上がり、昨年度『否定的評価』増えていることから、「部活動への充実感が下がっている」指摘されていたことの改善への努力が表れていると考えられる。

<Ⅳ 信頼と誇りのもてる学校づくり>

【教職員】

・6-(1)先生はいつも熱心に指導してくれる(3)「よく私の話を聞いてくれる」の2項目は『肯定的評価』が前年度を上回った。(2)「先生は誰に対しても公平である」についての『肯定的評価』は前年度を10%以上上回ったものの、48%と低い評価であった。また、前年度より否定的評価を上げているのもこの項目である。教員の取組の成果は出ていると思うが、この数値をこのまま放置することはできない。

➤ 先生は公平ではないという気持ちの裏返しは、自分のことを分かち合いたい、気持ちを聞いてもらいたいということであると思う。生徒の気持ちに沿った指導をぜひともお願いしたい。個々の生徒の感じ方にもよるが、何を不公平と思っているのか、耳を傾けることが大切である。この点については原因を明らかにし、対策を講じてほしい。

<Ⅴ 教育環境の整備>

<Ⅵ 学校生活全般>

・7-(1)毎日の学校生活が楽しい(2)「八幡中学校が大好きである」の2項目とも10%以上『肯定的評価』を上げている。

<学校独自項目>

・本年度取り上げた読書に関する調査では、肯定的評価があまり高くなかった。また、進路については、多くの情報を渡しているが、その情報から何かを得ることができているかを問うた。しかし、その肯定的評価は48%にとどまり、学校の意図した結果が得られなかった。

➤ 読書については「……気持ちを落ち着かせることができる」という発問がよくなかったように思われる。別の表現を考えたい。進路情報については、生徒は何を求めているのか、情報発信の仕方・量に原因があるのか、塾と比較しているのか、訊ねてみる必要もあるかもしれない。しかし、進路については本来は親子で考えなければならないことであるから、生徒自身が自分の置かれている状況を理解し、ほしい情報を積極的に求めることが大切である。塾との違いを理解させることも必要である。

3. 昨年度の評価で改善・努力をした点

【学校全般について満足度をさらに高めるように努力した。】

学習や教師・友人との関係が充実したものであれば毎日が楽しいと感じられるであろうと、生徒とのコミュニケーションをとる機会をふやした。結果、肯定的評価を上げることができた。

【学習指導について、授業改善をすすめ納得できる評価を目指した。】

全校で授業方法や授業内容の見直し・改善をさらにすすめ、生徒が分かったと実感できる授業を提供することに努めた。また、毎年4月に提示している観点別学習状況の評価規準に基づく評価方法と評価材料に加えて、通知表についても生徒・保護者にさらにわかりやすいよう工夫を加えて説明した。評価についての肯定的評価は向上した。

【進路指導について、適切な情報を適切な時期に提供するように努めた。】

1. 2年生には「進路だよりJr」や保護者には進路説明会への参加を通じて進路に関わる適切な情報提供を進めてきた。

【学校の安全性について、学校だよりなどで伝えた。】

玉川警察によるセーフティ教室の開催や、生徒へ携帯電話やインターネットの使い方の指導等を実施した。また、避難訓練や防災に関わる校内施設・設備の点検を行った。

【部活動について、一層の活性化に努めます。】

部活指導員の配置により、部活動の現状維持を図り、生徒・保護者とも肯定的評価を上げることができ、期待に応えることができた。

【先生について、教員の対応について、現状を明確にして改善に努めた。】

生徒ひとりひとりが感じていることが何なのかをあらゆる機会を活用して明確にするよう努力してきた。改善に取り組んだことにより肯定的評価は高まったが、生徒の評価は効果として表れきれていない。

【地域との連携について、学校全体で意識の高揚を目指した。】

地域行事には必ず教員が参加し、連携を図った。しかしながら、学校協議会のことについては理解を深めることが十分ではなかった。連携について保護者・地域とも肯定的評価の低いものが目立った。

【生活指導について、保護者・地域と協力しながら努力した。】

「問題となる行動が見られない」の項目について、地域の評価が年々下がっている。地域で生徒をよく見ている表れとも考えられる。協力関係は今後も探る必要がある。

4. 課題と思われる点について

- ・保護者用・地域用…4広報活動・情報提供について「本校のホームページは充実している」この項目においては、保護者では『E：分からない』の回答が31%、地域では『肯定的意見』の回答が37%と、低い回答を示した。周知についての課題が見られる。
- ・調査をクロス集計すると、先生を否定的に評価している生徒は、「話を聞いてくれる」と思わない生徒に多く、「指導は納得できる」も否定的評価が高かった。今後、「話を聞く」ということに照準を合わせた指導を図る必要がある。
- ・昨年度の結果を受け改善・取り組んだ項目を見ると、改善策への努力がアンケート結果に結びついていていると思われる。しかし、例年課題となることはやはり肯定的評価が低く、具体的な取組の提示が必要である。
- ・昨年度は「集団の質の向上に欠けている点」がアンケートの結果として表れてきている。」としたが、本年度の重点項目として取り組んだ結果、集団としてのまとまりを感じている生徒も多く、保護者も肯定的に評価している。
- ・生徒の考え方や学校に対する思いが大きく変わってきていると感じる。保護者の考え方も変わり、毎年同じ指導では伝わらない。学校側の取組や指導を変えて行かなくてはならない時期である。
- ・行事や部活動に対しての取組を充実させることが、学校生活全般を高めることに繋がる。学習が基本であるが、まずは集団のムード・八幡中学校の良さを高め、学力向上につながると考える。
(評価委員会の委員が、学校に関わっていた頃と単純に比較はできないものの、最近は先生方の仕事量が増え、それによって、本来生徒と関わるべき時間が圧迫されていると感じる。先生方は、子どもたちと関わる時間をもっと持てるよう、工夫がほしい。)

5. 学校関係者評価委員会としての提言

- *傾向を探るため、昨年度との比較検討をしてみた。昨年度下がった『肯定的評価』の数値を上げているという結果である。全体的によく頑張っている、努力していると思われる。
- *肯定的評価の数値が上がってはいるが、まだもの足りない数値の事柄があったり、比較的否定的評価が高い、あるいは「わからない」という評価が高い事柄を見てみると、生徒や保護者とのコミュニケーションをとる物理的な量(時間、場所)を多くすることで、解決されるのではないかとと思われる点が、アンケートの結果浮かび上がってきたと考えられる。
- *クロス集計でも、生徒が教員と話することが必要であると考えられることから、教員が話すための時間を意識的に作り出すことで改善につながると思われる。
- *クロス集計では、学校が楽しいと思う生徒は行事や部活動についての評価が高かった。これらの取り組みを中心に、学校が楽しいとなるような評価が高くなることを期待する。
- *検討を要する点は、校内で十分に検討し、具体的改善が図れるよう要望する。
- *「八幡中学校独自設問」では、「地域運営学校として、地域との連携に努力している」との項目で大きく『肯定的評価』を下げている。地域運営学校として理解・評価されてきているとは思いますが、さらに理解を深め、協力いただけるように現在の学校の取組を継続、発展させていく活動を期待する。
- *「地域」の回収率がよくなかったが、委員会としても配布時の説明の仕方を工夫していきたい。学校の情報発信の量や方法は、今までの委員会の提言をふまえ、改善されてきており、現時点では充分であると考え、最後にこの評価結果を、子どもたちによりよく還元していただくことを切に希望する。